

第2回京都市中央斎場のあり方検討委員会 質疑応答

日 時	平成24年8月9日（木）午後1時30分～午後4時30分
場 所	京都市中央斎場
出席委員	槇村委員長，岸谷委員，小林委員，長澤委員，原委員，藤本委員，丸山委員，山田委員，加藤委員
欠席委員	松井委員
事務局	土井生活衛生担当部長，今江生活衛生課長，浅野中央斎場担当課長

- 1 開会
- 2 斎場視察
- 3 質疑応答

【委員長】

説明をありがとうございました。ご質問があればお願いします。

【委員】

待合室と喫茶室との間にわざわざ段差があります。階高が同じなのに、デザインでしょうか。

【事務局】

デザインかどうかはわかりません。確かに段差で使い勝手は悪く、迷惑をかけております。

【委員】

フラットにならないのでしょうか。細いところを車椅子で利用されるのは大変だと思います。お年寄もよろめいて階段を利用されておられます。ほんの5センチくらいのことですが、何とかかならないかと疑問です。

【事務局】

端の部分には車いす用のスロープがあります。

【委員】

トイレは和式と洋式はどのようになっていますか。両方とも必要だとは思いますが。

【事務局】

両方あります。需要予測では、将来不足すると指摘されています。

【委員】

清掃はどのくらいの頻度で行っていますか。

【事務局】

本館は職員が毎日行っています。別館は業者が毎日清掃しています。本館との通路部分は業者もするが職員もします。業者は毎日朝の清掃と、昼からも適宜行われるような契約形態をとっています。

【委員】

本館の中はきれいですが、気になったのは、待合へ行く途中の渡り廊下の天井に日がさす

ところがありますが、砂利のところには蜘蛛の巣が張っていたのが印象的でした。

【事務局】

毎日朝にはきちんと清掃していますが、蜘蛛は1時間もあれば巣を張ります。遺族がおられるところで箒を持って清掃もしにくいので、朝の清掃後はそのままになっています。かなり蜘蛛が多く、通勤のバイクにも張っていることがあり、電灯にも巣を張っています。努力はしていますが、いくら掃除しても、夕方にはまた張られています。

蜘蛛の巣などの清掃は委託業者はしないので、実際は、職員が行っています。色々ところを職員が努力し、さまざまな工夫はしています。

【委員】

どこも大変きれいにされていて頭が下がります。それだけに、蜘蛛の巣があると何年もいじってないような印象を受けるのもったいないと感じました。

【事務局】

より一層注意いたします。

【委員】

火葬炉に工事中とありましたが、事故は頻繁にはないと思いますが、故障の頻度はどのくらいですか。

【事務局】

なるべく少なくなるように努力はしております。平成23年度に制御システムを導入してからは悪い箇所が事前にわかるようになって対処しやすくなりました。今回の故障は十数年経ってモーター自体を更新するのですが、古くなっていて時間がかかっていることが原因です。最近では備品管理をきちんとするように徹底しております。全体に機器が古いために、部品がすぐに揃わないことから、在庫を調べて部品を事前に揃えておいて、すぐに対処できるようにしています。頻度は一概に何回とは言えませんが、年度内に数度修理の必要があります。これらの修繕や整備は月に3回の休場日に行っています。

【委員】

ロストル方式は京都市以外にどこの都市がありますか。

【事務局】

いくつかの都市は導入しています。第1回委員会の他都市資料を参考にご覧ください。

【委員】

メーカーは1社だけですか。

【事務局】

ロストル方式はどの業者でも製造していると思いますが、制御システムと火葬炉と連動させるとなると業者は限定されます。大手となると数社です。

【委員】

将来、20、30年持たせるとなると、特定のメーカーだけに頼っていて大丈夫かなと思いました。

【事務局】

全体的に改修や修繕できるものは入札等で対応できます。ただ、部分的な改修の場合、メーカーが異なると、後のメンテナンスや責任の所在があいまいになります。

【委員】

その会社が倒産とか事業をやめてしまうとかで、継続できなくなるようなことがあった時

に、セカンドケアがある方がよいです。20年後のピーク時に設備面で支障が起こらないようなことは考える必要があると思います。特に、今故障中の火葬炉のモーターは部品がなく、すぐに改修できないということのようですが、迅速に修繕ができるように対策すべきです。

【事務局】

モーターの関係などは耐用年数以上に使用しているので、部品も別途作成する必要があります。本来は耐用年数を見越して施設整備をしていく必要があります。現在は全国シェアトップクラスの宮本工業所というメーカーであり、ここはコンピュータ制御の特許を持っているので宮本工業所と契約しています。また、ご指摘の将来のことも想定しなければならないことは課題として認識しております。具体的なメンテナンスに当たっては、宮本工業所の社員が2名常駐して、定期点検や緊急時の対応をお願いしています。これは委託契約の範囲内です。

【委員】

案内図とか平面図があまり見当たらないが、業者が案内するから必要ないということですか。

【事務局】

検討すべきことと考えております。現在、受付と階段下に案内図があります。実際は業者にご案内してもらっております。個人で来られる方については、事務所で図面を渡して説明しています。

【委員】

喫煙についてはどうされていますか。

【事務局】

今のところ場内に1箇所だけ屋外に喫煙場所を設けています。エレベータ棟の横の屋外に灰皿を3個設置しています。ただ、風の具合で煙が運ばれて遺族の方からクレームをいただくことがあり、簡単に煙を遮ることができないかと検討しているところです。

【委員】

1階と2階の待合室の位置づけは、各々で用途があるのですか。

【事務局】

今は、区分はしておりませんが、平成22年にエレベータ棟が完成するまでは車椅子の方は1階でお待ちいただいていたました。

【委員】

自動販売機やお茶などの給水器の設置はありますか。

【事務局】

自動販売機を設置し、湯茶サービスも行っています。

【委員】

年1回の中央斎場運営協議会で協議をさせていただいております。エレベータやバリアフリーなどの要望も前向きに検討いただけてきました。今日、火葬炉なども見させてもらうと、補修は必要だと思います。また、収骨室の増設も必要です。待合室のスペースのこともあり、マイクロバスの規制は必要だと考えます。私が現場にいたころは車での来場は3台と規制がありました。徹底しないと残りたい人はたくさんいるわけですから、このままだと遺族に行き届いたサービスの提供もできなくなるのではないかと思います。

マイクロバスは20人乗りです。それだけの人数が収骨室に入れるのかということがあり

ます。収骨室は10人規模といわれていますが、20、30人が収骨に残られるのであれば、それなりのスペースは必要ですし、車椅子が入れる場所があるのかということも課題です。スペースには限りがあることは仕方ありませんが、今回の委員会で議論して、京都市も前向きに検討してもらえればありがたいです。

【委員】

職員は休憩もなしで仕事をされているというのは負担が大きいと思います。仕事なのですが善意でお願いしているように思います。気持ちで支えられていますが、今後、件数が増えると職員数は不足しませんか。

【事務局】

火葬業務の現在の勤務体制は15人おりますが、最低11名の勤務が必要になります。今後、火葬件数が増えたとしても、今のメンバーで対応できると考えています。休憩時間は、11時30分から13時30分の間に交代で30分、あとの30分は勤務時間内のどこかの時間帯でお願いしています。

【委員】

事務職との差が大きいように感じますが。

【事務局】

一概にそうとは言えません。

【委員】

今のメンバーでこなせばいいのですが、無理をしているのではないかと心配します。

【事務局】

火葬業務については、今の人員がベストであると考えています。休憩も工夫しています。全員が高い自己責任で担当業務をこなしていると考えています。

【委員】

毎年新しいメンバーが入ってくるのですか。

【事務局】

火葬技術の向上と継承を行うために、経験を積むことが重要であり、原則、退職まで斎場で仕事をします。退職者があれば補充する形になります。

【委員】

技術の伝承は必ず行われるということですね。

【事務局】

そうです。私も先輩から技術を教えてもらいました。現在の人員で効率よく対応できると考えています。

【委員】

火葬中にバーナーとか止まった場合はどうするのですか。

【事務局】

原因を究明してすぐに修理します。簡単なものは職員が、場合によっては宮本工業所の常駐員が対応します。

【委員】

ご遺体はそのままですか。

【事務局】

そのままの状態、早期に問題を解決させる努力をしています。

【委員】

聖土槽について、中央斎場、京都仏教会、葬祭に携わる方々皆さんで考えていかななくてはならない問題であると思います。関東の慣習とか関西の慣習とかは特に理由があるわけではないのですが、それぞれの立場で聖土槽、残骨灰については考えていく必要があります。京都では、半年に一度、永観堂で仏教会と中央葬祭業協同組合で800家族2000人が集まって焼骨灰供養法要を行っています。また、大阪ガスの施設がありますが、中央斎場は関西電の計画停電では除外施設になりませんでした。緊急時の対応ということでは、LPGだけでなく自家発電だけは何とか対応しておかないといけないと思います。

【委員長】

学ぶべきところがたくさんあったと思います。他の家族と一緒にしないで送別できるのか、職員の方々が献身的に一所懸命されていることも見ると、中央斎場はとても熱意を持って仕事をされていると感じました。残骨灰の取扱いなど大きな課題もあると思いますが、このようないいところで故人を送らせてもらったということがわかりました。暑い中、説明などありがとうございました。

4 閉会